

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【道祖土小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)自ら目標をもち、見通しや振り返りを通して、学びを調整していく資質・能力 (2)他者との関わりの中で考えを比較し、自らの考えを広げ、深める資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)めあて設定と振り返りを一体的に実施し、単元の見通しをもたせることで、児童が自ら学びを調整する力を育成する。【各単元の導入時を含め、2回以上】 (2) ①自分の考えをもとに、他者と比較・検討する「対話的な活動」を位置付ける。【毎時間】 ②「結論・理由・根拠」を意識した表現活動を通して、考えを広げ深める力を育成する。【単元末】

ざらざら(楕円)

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修会
↓		
今年度の成果と次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語、算数の両教科とも、全国平均及び埼玉県平均を上回った。 ・国語では「読むこと」「話すこと・聞くこと」、算数では「図形」「測定」の領域で高い成果が見られた。 ・「主体的・対話的で深い学び」「学びの自己調整」が、全国基準を大きく上回った。 ・「自己有用感・心理的安全性等」、「向社会的性」も、全国基準を上回った。 ・国語の記述問題や、算数の割合・変化と関係の問題に課題が見られる。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	学習に対して前向きに取り組み、自ら見通しをもちながら学習を進める児童が多い。また、友達との対話を通して考えを深めたり、協力して課題解決に取り組んだりする姿が見られる。さらに、自己有用感や安心して学べる学級風土を基盤として、学習に主体的に取り組むことができていく。 基礎的・基本的な知識及び技能は概ね身に付いている一方で、自分の考えを根拠を明確にして説明したり、複数の情報を関連付けながら表現したりすることについては課題が見られるため、学習した内容を活用し、自分の言葉で論理的に表現する力を伸ばしていく必要がある。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
	B めあてと振り返りを位置付けた学習や、対話を通して考えを比較・検討する活動を継続的に実施した結果、「主体的・対話的で深い学び」及び「学びの自己調整」に関する項目で高い結果が見られた。また、国語・算数ともに全国平均及び埼玉県平均を上回る成果につながった。一方で、自分の考えを根拠を基に説明したり表現したりする力には課題が見られる。今後も、管理職参観や学校課題研究を通して学力向上策の共有・改善を図り、全教職員が共通理解のもとで実践を積み重ねることで、児童の更なる学力向上につなげていく。
↓	
学力向上策の 見直し	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所